

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	東京情報大学 総合情報学部・情報システム学科	実施時期	2014年度(前期)
対象学年・学期・人数	3年生 約110名		
講座名	システムエンジニアリング		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の種類	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>従来から、企業の方に来ていただいて、情報システムに対する技術的な内容や、SEとしての仕事内容、資質について学ばせる科目があった。SE講座があることを知り、2006、2007年度に、この科目にSE講座の一部を4コマ導入し、2008年度以降、13コマ全てSE講座に置き換えて実施している。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>企業から大学に来た先生も多いが、大学に数年いると、企業とのかかわりも薄れているので、企業の最前線でシステムエンジニア(SE)として活躍されている方々に講義していただき、SEに必要な技術内容や、SEの仕事内容、資質について学ばせることを目的としている。</p>		
連携にあたっての課題・懸念	<p>学科内での認識は高く、賛同してくれる先生も多い。学科内の各教員が行っているゼミでも学生に履修するように指導してもらっている。昨年は同じ学科の他の選択科目が同じ時間帯に割り当てられたため、情報システム学科の学生の履修者は約50%であったが、今年度は時間割を見直し、他の選択科目と重ならないようにしたため、履修者は約80%に向上した。</p>		
講座の位置づけ 既存講座との関係	<p>情報システム学科の学生の内、約70%がSEとして就職している。学生に、SEの仕事内容や、やりがい、資質等を、より深く理解してもらうことを狙っている。キャリア系の科目は、他にもあるが、情報システム学科の学生の就職状況などを踏まえて、SE講座を行っている。</p>		

履修前提条件	選択科目であり、履修条件などは示していない。学科としては、極力履修するように、ゼミの先生を通して指導している。
授業準備と実施の体制	学生には、本授業の案内を掲示する HP で、授業の狙いや、目的、授業計画、評価方法などを示している。また、授業日の 1 週間前に、講師の講義資料や要約を HP に掲載し、事前に見ておくように指導している。 前年までは、この資料を印刷して授業に持参するように指導していたが、持参しない学生が多かったので、今年度は担当教員が印刷し、授業前に配布することとした。
成績評価の方法	毎回、出席者にアンケートを記載させている。アンケート提出の回数(出席回数)とアンケートに記載した内容により、総合的に評価している。評価に当たっては、出席回数のウェイトを高くしている。 今年度は質問した学生に少し加点することにした。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ 90 分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	第 1 講 ガイダンス	講義	大学の担当教員 平野正則
	第 2 講 SE とは	講義	KIA の講師
	第 3 講 SE のマネジメントスキル	講義	KIA の講師
	第 4 講 情報システムの企画と提案	講義	KIA の講師
	第 5 講 システム設計の概要	講義	KIA の講師
	第 6 講 システムテストと運用テストの意義	講義	KIA の講師
	第 7 講 情報サービス産業界の現状	講義	KIA の講師
	第 8 講 データベースの知識	講義	KIA の講師
	第 9 講 ネットワークの知識	講義	KIA の講師
	第 10 講 情報セキュリティと個人情報保護	講義	KIA の講師
	第 11 講 プロジェクトマネジメント	講義	KIA の講師

	第12講 SEのベーススキルと関連知識	講義	KIAの講師
	第13講 システム化事例紹介	講義	KIAの講師
	第14講 授業全般の総括とまとめ	講義	KIAの講師
	第15講 まとめ(大学の授業評価など)	講義	大学の担当教員 平野正則

講座ならびに演習・ 実習の具体的な進 め方	パワーポイントを用いた講義。 教室に備え付けのプロジェクタとノートPC。
-----------------------------	---

2. 講座実施後の情報

<p>受講者の声(受講目的、修得目標)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SE の仕事内容や SE として要求される資質について学べる。 ・将来 SE になることを希望しているので、SE について深く知りたい。 ・将来の職業選択に役立てたい。 ・企業の人々がどのようなことを考えているか知りたい。
<p>受講者の感想(本講座で得られたもの)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能力やスキルのある人よりもやる気があり目標を持っている人、協調性のある人を企業はより欲しがるとのことであり、自分も学習だけでなく、そのような資質を身につけるように努力したいと思う。 ・SE がプログラマと違う点や就職活動の時に何が大切か、何が求められているか、今何をすべきかを教えていただいたので、とてもためになった。就活が始まるまでの残り半年で、自分にできることを精一杯努力しようと思う。 ・SE としての仕事内容はもちろんのこと、社内の雰囲気や、SE としての心構えなど、いろいろなことを教えていただき、ためになった。 ・企業の現場でどのような工夫、行動をとっているかを知ることができた。 ・現場の生の声を聞くことにより、SE になることへの意欲にも繋がり、企業研究をするきっかけになった。 ・大学の講義で学んだ内容も、実際の現場で働いている方々の目線で話していただけると、大学の講義だけでは得られない新たな知識も追加され、さらに深く理解できるようになった。 ・自分が考えていた SE と、実際の SE の仕事では、若干の違いがあった。そのことが判って良かった。 ・女性講師の方の講義を受けて、女性でも十分、SE として活躍できることが判った ・これからの就職活動に役立てたい。 ・情報処理技術者試験の資格取得の重要性が実感できた。 ・もう少し自分たちの年齢に近い人の話も聞きたい。 ・講師の方々の、実際の業務での体験や失敗談から得られた教訓がとてもためになった。就職後だけでなく、学生生活でもあてはまるものがたくさんあったので、残りの学生生活に活かしていきたい。 ・現場の声を聞くことが出来る貴重な場を提供して頂き有難うございました。今後も、私たちの後輩のために、このような講義を開講して頂けると幸いです。
<p>先生の評価</p>	<p>[良かった点]</p> <p>企業で、システムエンジニアとして御活躍の講師の方に来ていただき、最前線の現実を生々しく伝えていただくことにより、学生にとっても、視野が広がって良かった。また、企業での仕事内容についても話をいただいているので、学生の職業選択のための情報提供に役立っている。ガイダンス時に、教室の前に座るように指導し、後ろの席に座っていた学生を前の席に移動させた。ガイダンス以降の授業では概ね、前に座るようになり、受講態度も良かった。</p>

	<p>[改善を要する点]</p> <p>技術内容の講義では、大学の授業と一部重なる部分もある。しかし、学生の意見では、同じ内容でも説明の仕方などが異なるため、より深く理解できるとの感想もあり、少々重複する部分があっても良いと考えている。講義の時間配分でいえば、もう少し業界の話や、会社紹介の時間を増やしていただければありがたい。</p> <p>[課題]</p> <p>大学の通常の授業も同じであるが、学生が受身であり、なかなか質問などが出ない。今年度は、ガイダンス時に質問した学生は評価を上げると伝えて、質問が多く出るように工夫した。これにより質問する学生が少しは増えたが、十分とは言い難かった。より多くの学生から質問が多く出るようにもう一步工夫したい。</p> <p>[工夫した点]</p> <p>今年のアンケート用紙では、「授業内容で印象に残った事、参考になった事」の欄に、“当項目の記述内容は成績・評価に反映されます”と記述されていた。これにより、この欄を白紙で出す学生は少なくなった。また、授業も熱心に聞くようになった。</p>
<p>企業・団体による 評価</p>	<p>講義で学んだ個別の概念や技術が実務の世界でどのように使われているか、各企業や講師の体験をベースにした事例を通して学ぶことに、受講生の多くは価値を見出しているということが出来る。「毎回、異なった企業の異なった講師が担当する。」という、神情協 SE 講座ポリシーは妥当なものであると考えることができる。学生は全体に大人しく、おおむね真面目な受講態度で取り組んでいた。担当の先生からは、来年度も同様に依頼したい旨の依頼があった。</p>
<p>今後の展望 (継続に向けた課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容や進め方については、現状で満足している。連携の役割分担などは、現状通りで問題ないと思う。 ・評価でも述べたように、業界の話を増やしていただければありがたい。 ・受講している学生が講義に集中するように、出来るだけ教室の前に座るように指導したり、アンケートを工夫したことは効果があった。 ・今後、質問などが多く出てくるように工夫したい。

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称:大学向けSE講座 講義形式:SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会(会員企業の認定講師)	費用	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義:01(ガイダンス) 講義:02(SEとは) 講義:03(SEのマネジメントスキル) 講義:04(情報システムの企画と提案) 講義:05(システム設計の概要) 講義:06(システムテストと運用テストの意義) 講義:07(情報サービス産業界の現状) 講義:08(データベースの知識) 講義:09(ネットワークの知識) 講義:10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義:11(プロジェクトマネジメント) 講義:12(SEのベーススキルと関連知識) 講義:13(特別講義、システム化事例紹介) 講義:14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		